

## 6 広報相談に関する取組

若年層や子育て世代を対象に、財務省や金融庁の施策を、予算編成シミュレーションのグループワークや生活に役立つマネー講座など、分かりやすい形で情報発信しています。



## 財政教育の深化とより多くの授業実施の取組

東海財務局岐阜財務事務所では、岐阜協立大学と連携協定(※)を締結しているところ、今年度から、高校での財政教育プログラムの実践を含めた講義の開講に協力。この取組を通じて、大学生や高校生が国の財政について理解を深める機会を創出している。

※令和3年度に「地域の様々な課題に対して、情報・意見交換を行い人材育成等を協力して地域に貢献すること」を目的に締結したものの。

### 概要

- 昨年度は、岐阜協立大学との連携協定に基づき、大学生が岐阜財務事務所が実施する財政教育プログラムにグループワークのスタッフとして参加。
- 今年度は、同大学において、財政等に関する幅広い知識や日本の経済社会が抱える課題を考察する力を身に付けることを目指す講義(全15回)が開講。
- 講義には、「財政教育プログラムの教材研究」、「**大学生が講師を務める高校での財政教育プログラムの実践**」が含まれているほか、当事務所が授業3回分を担当。

### <当事務所が実施した授業内容>

- ・ 財務省の組織紹介
- ・ 財務局の業務説明
- ・ 日本の財政や最近の経済情勢の解説
- ・ 財政教育プログラムの授業進行のポイントの解説

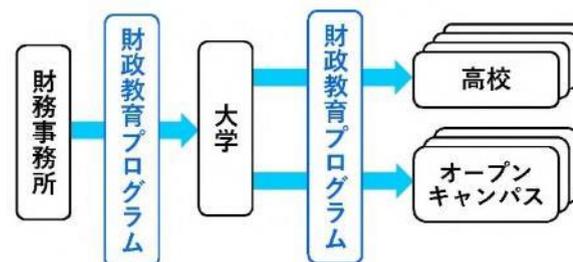


【大学での講義の様子】

### 取組の成果

- 大学側からは、「財務省職員から直接財政の課題等を聞くことで、**幅広い知識を習得**できた」、「高校で授業を実施し、財政の抱える課題に対する多様な考え方に触れることで、**財政の理解をより深める**ことができた」との声。
- 年齢の近い大学生がグループワークのスタッフとしてだけでなく、講師となって高校での授業を進めることで、グループワークを含む授業全体が活性化。
- 大学のオープンキャンパスでも財政教育プログラムが実施され、**より多くの生徒に国の財政の課題について考える機会**を創出。

### <大学生による財政教育プログラムの実践>



【高校での授業の様子】

# フューチャー・デザインを用いて 地方財政を考えるワークショップを開催

大学生が30年先の未来人からのメッセージを踏まえて地方公共団体の予算案を作成。未来への影響を考慮した持続可能な地方財政の在り方について議論。

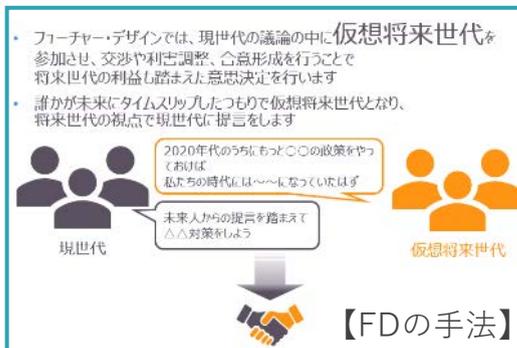
## 概要

- 地方財政をテーマとする京都産業大学経済学部のゼミにおいて、実在する地方公共団体の財政状況を題材に、フューチャー・デザイン※(以下、FD)の手法を用いたグループワークを実施。

※フューチャー・デザインとは、社会の様々な課題を考える際、現在の世代だけではなく、その課題の影響が及ぶ「未来の人々」の立場も踏まえて議論しようという取組

- 30年先の未来にタイムスリップしたと想定し、未来の地域の姿を自由に想像。そのうえで、未来人から現代人に向けてメッセージを送り、持続可能な地方財政の在り方について問題提起。

- 再び現代に戻ったと想定し未来人からのメッセージを踏まえて予算案を作成。併せて、**地域の特性・課題を見据えた「新しい税」を考案。**



## 取組の成果

- “未来への影響も考慮した選択・行動”を、ワークを通して体験し、**持続可能な社会の在り方を考える機会を創出。**
- 大学との連携により、地域の課題解決に資する**次世代の人材育成に貢献。**

### 【参加者の声】

- ・自分たちが未来を創っていくという意識が芽生え、主体的にワークに取り組むことができた。(学生)
- ・現状の課題解決にとらわれるのではなく、長期的な視野をもって議論することの重要性を学んだ。(学生)
- ・今後のゼミの活動にも、FDの考え方を積極的に取り入れていきたい。(担当教授)



【ワークショップの様様】

### 【今後の展開】

- 地方公共団体をはじめとして連携先を拡大し、FDを用いた取組を通じて、地域社会の課題解決に貢献していく。

## 新たな広報チャネルの開拓

財務局・財務事務所業務の認知度を向上させる取組のひとつとして、地元CATVにおいて15分の放送枠に出演するなど、新たな広報チャネルの開拓を行った。

### 概要

#### ○財務局・財務事務所業務の認知度の低さ

- ・国立大学の経済学部生が、財務省がどんな仕事をしているのかを知らない、更には財務局・財務事務所の存在自体を知らないという場面が多くあった。

#### ○新たな取組の検討

- ・幅広い層の県民に「財務事務所」という存在をまずは認知してもらうために、新たにかつ継続的にできることはないか検討を行った。

- ★松山財務事務所は、これまでの取組の積み重ねで、地元メディアとの良好な関係が維持・継続できている。



- 地元CATVにおいて、まずは**県内経済情勢の説明**ができないかと考え、地元新聞社に相談したところ、地元CATV社担当者の紹介を受けた。
- 地元CATV社への説明・プレゼンを経て、15分の放送枠を獲得。

### 取組の成果

- 令和6年2月に初収録、所長及び経済調査事務を担当する若手職員が出演。3月24日から地元CATVにおいて、15分枠の放送が開始。以降、ループして放送されている。
- 今後、県内経済情勢報告の記者発表後に、新たな収録を行い、放送を継続していく予定。なお、次回分から、県内他CATV(8局)に番組データが提供される予定。
- これまでも地元ラジオでの県内経済情勢の説明や地元新聞社での連載記事の寄稿(令和5事務年度は新NISAの記事を寄稿)等独自の取組を実施。

- ★これら地元CATVでの県内経済概況の説明や愛媛新聞への連載記事等については、「資料も見やすく、分かりやすい解説であった」「全社員に見るように呼び掛けた」などという声も寄せられた。



## 三者協働<地方版>財政教育プログラム

長崎財務事務所では、福岡国税局（長崎税務署・平戸税務署）及び松浦市役所と連携・協働し、市の予算を題材とした<地方版>財政教育プログラムを企画・実施。

### 概要

- 租税教室を実施予定の中学校から「生徒に財政・税について身近に感じてもらえるように『松浦市の予算』を題材にした財政教育プログラムを実施できないか」との相談が寄せられたことから、財務事務所・税務署・市の3官署で<地方版>財政教育プログラムを企画。
- グループワークでは、市の令和5年度当初予算を題材としたオリジナルのマグネット教材(予算ボード)を使用。3官署の職員が講師やアドバイザーを分担して実施。

### プログラムの構成

講義	財政の役割、国の財政状況等	長崎財務事務所
	私たちの暮らしを支える税	平戸税務署
	市の財政状況、特徴的な事業等	松浦市
グループワーク	予算ボードを使って市の予算編成を疑似体験 (グループワーク後に発表・まとめ)	

### 取組の成果

- グループワークでは松浦市の独自事業(「アジフライの聖地」としての情報発信等)に対する議論が白熱するなど、地方財政を題材とすることで、より身近なものとして財政に興味や関心を持ってもらうことができた。
- 租税教室と連携した授業内容にとどまらず、地方財政を題材とすることも可能な枠組みを構築できたことから、今後も学校のニーズに応じた展開が期待される。



【グループワーク】



【テレビでの報道(NHK長崎)】